

巻 頭 言

長崎短期大学 学長

安 部 恵 美 子

我が国は、少子高齢化の進行、地域コミュニティの衰退、新興国の台頭による国際競争激化などの急激な社会変化や、東日本大震災という国難に直面しており、今こそ、持続的に発展し活力ある社会を目指した変革を成し遂げなければならず、その中で目指すべき新しい大学像として、学生がしっかり学び、自らの人生と社会の未来を主体的に切り拓く能力を培う大学、地域再生の核となる大学、生涯学習の拠点となる大学、社会の知的基盤としての役割を果たす大学などがあげられています。(文部科学省平成 25 年 3 月「地(知)の拠点整備事業公募要領」より)

地域に密着し地域の人材育成を担う短期大学は、地域社会の未来に貢献するために、学びを通して地域の課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる学生を育成するとともに、地域の短大ならではの強みに磨きをかけるべく、教育課程や教育内容をより向上・充実させていかなければなりません。

当然のことながら、それらの教育活動の質は教員の個人的能力に左右されます。教員の能力を高めるには研究業績の積み上げが不可欠であり、研究に尽力することは、「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成する(学校教育法第 108 条)」短期大学の教員としての責務であると思います。また、自らが学び続ける主体としてのモデルとなることで、学生の自ら学ぶ姿勢を育てると捉える視点が教育に携わる者には不可欠です。

さらに、教育活動の質は、教員集団(faculty)の統制力(まとまり)にも大きく左右されます。共同研究などを通じて教員の力を結集し、連携を図ることが強く求められます。

さて、本研究紀要に掲載されたどの論文からも執筆担当教員の研究に対する篤い思いを感じとることができます。18 年度から実施し定着した「研究費傾斜配分制度」を利用した、短大の教育活動の中で積み上げた実践研究充実しつつありますが、経年に亘った成果検証の報告が待たれるところです。

ここに積み上げた各教員の研究業績に対し、学長として敬意を表すると共に、その研究の成果が学生の教育に還元されることを心から期待します。

最後になりましたが、なかなかかどらぬ原稿の集約状況に心を砕きながら、編集作業に携わっていただいた紀要編集委員諸氏のご尽力に感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月

学長 安部恵美子